

## 週報

## 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~6日	5月 ~13日	5月 ~20日	5月 ~27日	6月 ~3日	6月 ~10日	6月 ~17日	6月 ~24日	7月 ~1日	7月 ~8日	7月 ~15日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	37	39	48	105	12	31	19	13	24	13	17	17	17	24	15
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	66	51	44	98	7	30	21	20	20	17	26	20	16	27	17
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	3	1	1	5	0	2	1	0	3	6	2	9	2	1	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	14	11	7	24	4	2	0	4	2	4	1	3	0	4	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	12	11	13	12	1	5	3	3	4	3	6	4	2	1	1
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	7	5	3	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	2	11	18	50	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	13	13	17	4	0	3	0	1	0	1	0	1	1	0	0

### 広島県感染症発生動向週報

平成30年第28週(7月9日~7月15日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	4	結核	4	1	1	2				
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四類	10	E型肝炎	1						1	
		重症熱性血小板減少症候群	1							1
		日本紅斑熱	1			1				
		レジオネラ症	7	1	2			3	1	
五類全数	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1						1	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1						1	
		梅毒	3					3		
		百日咳	7		5			1		1

注) 西部…大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島町, 江田島市 西部東…竹原市, 東広島市, 大崎上島町  
東部…三原市, 尾道市, 世羅町, 府中市, 神石高原町 北部…三次市, 庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

## 定点・全数把握疾患週報【広島市】(第28週 7/9～7/15)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

## 1. 梅毒

3件の報告がありました。今年の累計は62件(男性41件、女性21件)となり、すでに過去最多だった昨年の年間報告数に並んでいます。患者の年齢は20～40代が全体の83.9%を占め、男性では30代、女性では20代が最も多くなっています。

梅毒は、性的な接触(感染部位と粘膜や皮膚の直接の接触)により感染します。感染後、感染部位にしこりができたり、リンパ節が腫れたり、全身に「バラ疹」と呼ばれる赤い発疹が出るなど、様々な症状が現れ、症状が軽快しても、治療をしない限り完治はしません。

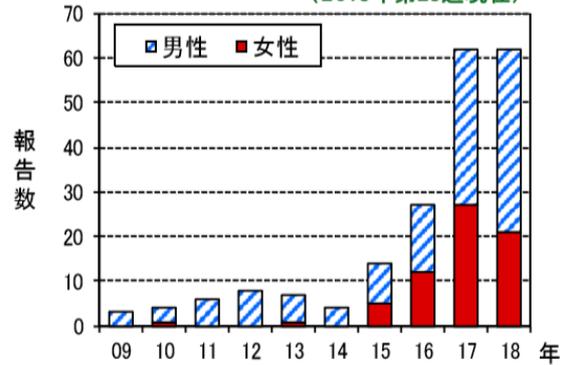
梅毒に感染したおそれのある方は、早期に医療機関を受診しましょう。

## 2. RSウイルス感染症

定点あたり1.00人と、例年同時期と比べて多くなっています。

## 梅毒の年間報告数の推移

(2018年第28週現在)



【参考】梅毒に関するQ&amp;A(厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html)

## ■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィン	インフルエンザ	-	-	0.02			小児科	流行性耳下腺炎	5	0.21	0.81	
小児科	咽頭結膜熱	18	0.75	0.81			眼科	RSウイルス感染症	24	1.00	0.19	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52	2.17	2.22				急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	82	3.42	4.81			基幹	流行性角結膜炎	8	1.00	0.88	
	水痘	5	0.21	0.68				細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	76	3.17	5.15				無菌性髄膜炎	-	-	0.14	
	伝染性紅斑	-	-	0.35				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.17	
	突発性発しん	9	0.38	0.47				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	0.03	
	ヘルパンギーナ	26	1.08	2.23				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

## ■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	レジオネラ症	3	19	男性(60歳代)・2人、女性(80歳代)・1人
5	梅毒	3	62	女性(20歳代)・1人、女性(30歳代)・1人、男性(70歳代)・1人
5	百日咳	1	22	女性(10歳未満)

## ■新たに判明した病原体検出状況

新たな検査結果はありません。